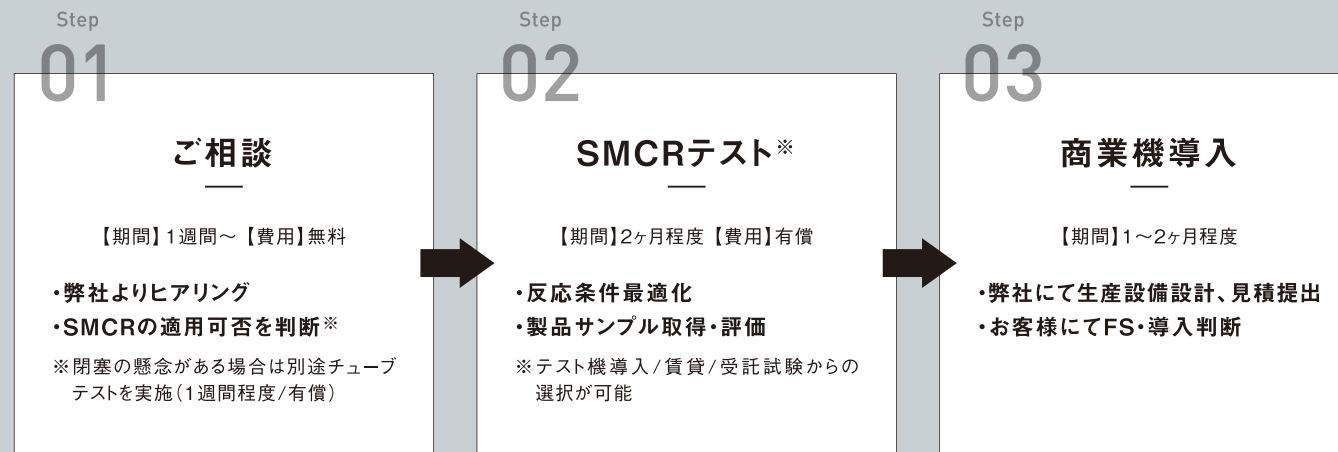




※写真はイメージとなります

導入の流れ



KOBELCO

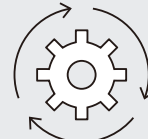
化学プロセスを変革する生産技術

SMCR
Stacked Multi - Channel Reactor

SMCRが化学プロセスに
変革をもたらします。



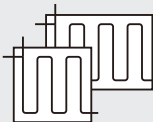
生産国の
多様化



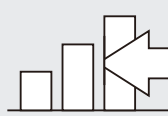
自動化
作業安全



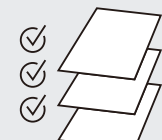
省エネ
SDGs対応



多品種
小ロット対応



早期
市場投入



安定品質の
確保

株式会社 神鋼環境ソリューション

プロセス機器事業部

東京支社
〒141-0033 東京都品川区西品川1-1-1 (住友不動産大崎ガーデンタワー)
TEL:03-5931-3710 FAX:03-5931-5702

大阪支社
〒541-8536 大阪市中央区備後町4-1-3 (御堂筋三井ビル)
TEL:06-6206-6754 FAX:06-6206-6758

九州支社
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1-1 (新幹線博多ビル)
TEL:092-474-6565 FAX:092-441-4440

名古屋支店
〒451-0045 名古屋市西区名駅2-27-8 (名古屋プライムセントラルタワー)
TEL:052-581-9876 FAX:052-563-2313

本社
〒651-0072 神戸市中央区臨浜町1-4-78
TEL:078-232-8018 FAX:078-232-8051

播磨製作所
〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19
TEL:079-436-2500 FAX:079-436-2506

技術研究所
〒651-2241 神戸市西区室谷1-1-4
TEL:078-992-6500 FAX:078-997-0550

URL <http://www.kobelco-eco.co.jp>

本カタログに記載された数値、写真、評価等の情報は、弊社製品の一般的な特性や性能を説明するための参考情報であり、保証を意味するものではありません。また、本カタログに記載の情報は、今後予告無しに変更される場合がありますので、最新版については営業窓口までお問い合わせください。

株式会社 神鋼環境ソリューション



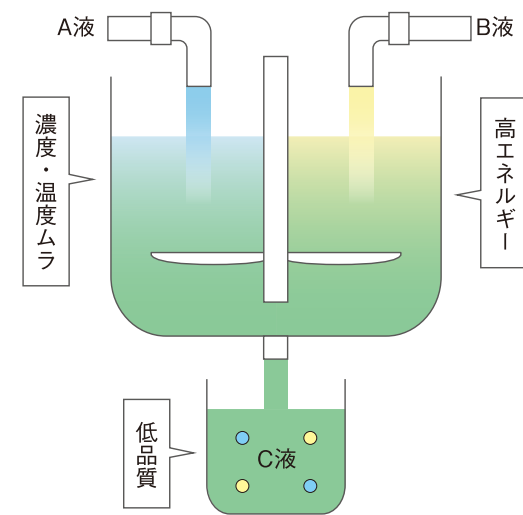
従来プロセス

バッチ生産

Batch

大型反応槽での逐次作業

大型反応槽を使ったバッチ生産では、温度・濃度のムラができ、エネルギー消費が大きいなど、さまざまな課題がありました。



長所

- 大量生産が可能
- 生産方法が確立されている

短所

| | | |
|---------|--------|-------|
| エネルギーロス | 開発の長期化 | 品質不安定 |
| 大スペース | 人的コスト | 危険性 |

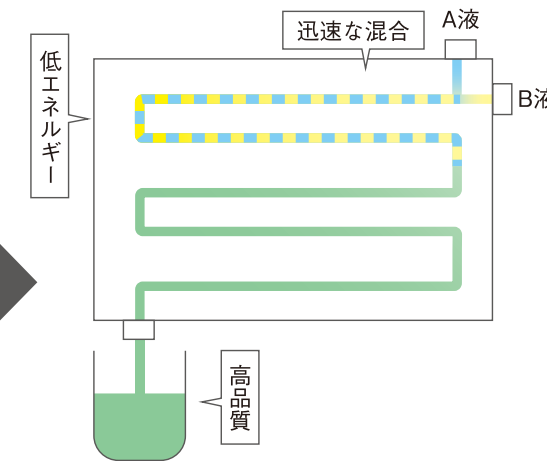
新プロセス

マイクロチャンネルリアクタ

Micro Channel Reactor

微小空間での連続運転

微小流路で化学反応を進行させる生産方式で、低消費エネルギーで高品質の目的物を生成できるというメリットがあります。



短所

- 大量生産ができない

長所

| | | |
|-------|--------|------|
| 省エネ | 開発の短期化 | 品質安定 |
| 省スペース | 省人化 | 安全 |

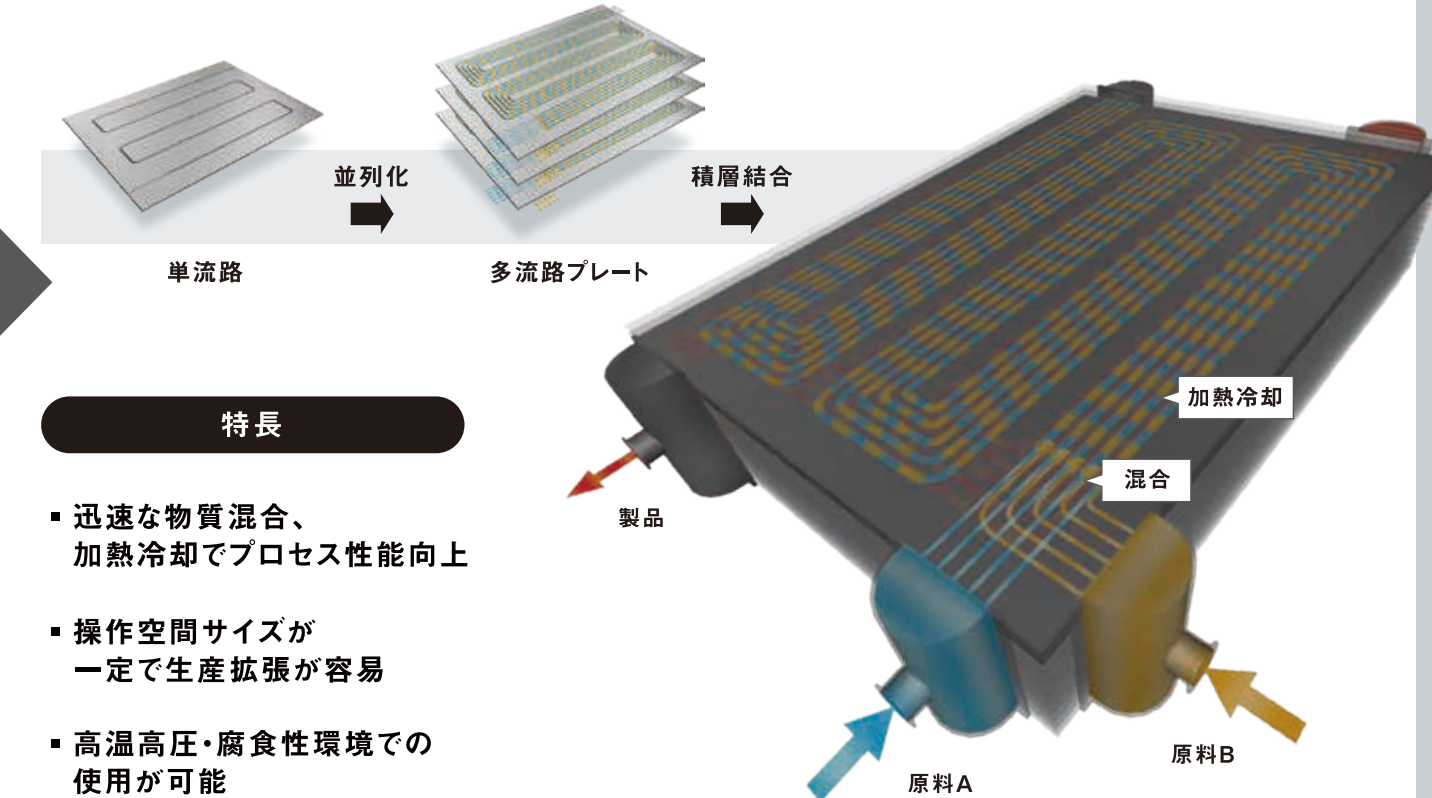
積層型多流路反応器

SMCR

Stacked Multi - Channel Reactor

並列×積層で流路数を飛躍的に増加

流路径0.5~2.4mmの流路を並列化したプレートを積層。大規模な実生産(数百~数万トン/年、m³/hオーダー)が可能になり、マイクロチャンネルリアクタのメリットをあらゆる生産プロセスで活用できます。



特長

- 迅速な物質混合、加熱冷却でプロセス性能向上
- 操作空間サイズが一定で生産拡張が容易
- 高温高圧・腐食性環境での使用が可能

主な仕様

使用用途：反応(気液・液液系)/抽出/吸収
 適用材質：ステンレス/セラミック
 設計圧力：~99MPa
 設計温度：~450℃
 適用法規：高圧ガス/一圧/ASME/PED

サイズ：最大580×1,200×600 mm(幅×長さ×高さ)
 内容積：~30L
 流路径：0.5~2.4mm
 流路形状：半円、円形、矩形

経営者の皆さま、
 こんな課題はありませんか？

グローバル化、
 新興国企業の台頭。
 生産性を高めて
 競争力を強化したい。

設備老朽化、
 人材不足により、
 事業の継続が
 危ぶまれる。

エネルギーコスト、環境負荷を
 低減し、SDGsに対応したい。

ユーザーニーズの多様化に
 対応したい。

新製品を早期に
 市場投入したい。

職人技に頼らず、
 安定品質を確保したい。